

静岡県における外来種ヤンバルトサカヤステの分布の推移

○神谷貴文（静岡県環境衛生科学研究所）

はじめに

ヤンバルトサカヤステ (*Chamberlinius hualienensis* Wang, 1956) は、ヤステ綱オビヤステ目ヤケヤステ科に属する多足類で、背面は薄い褐色で各背板の後縁に黒褐色の横帯を持つ。ヤンバルトサカヤステは一年一世代型の生活史を持ち、卵～幼虫（1～6齢）～亜成体（7齢）～成体（8齢）と脱皮によって変態を行う。普段は土壌中や落葉の下など有機質に富んだ湿り気のある場所にいるが、毎年10～12月の繁殖期になると異常発生し、集団で壁によじ登ったり家屋に侵入するなどの不快性被害をひき起こす。

本種は1956年に初めて台湾で記載され、その後1983年に沖縄島で確認されてからは、南西諸島や鹿児島島本土、八丈島に分布を広げており、近年では本州や四国でも局所的に確認されている。静岡県でも2002年頃から異常発生がみられ、生息域が拡大する懸念があったことから、静岡県環境衛生科学研究所では2008年度から県健康福祉センターおよび市町関係課に対してヤステの苦情に関するアンケート調査を毎年実施し、県内のヤンバルトサカヤステの分布状況の把握に努めている。

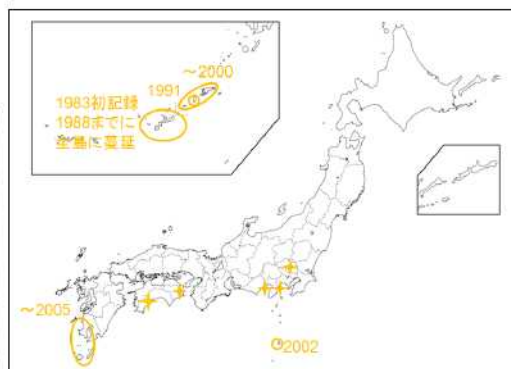


ヤンバルトサカヤステ



2010.10 静岡市清水区

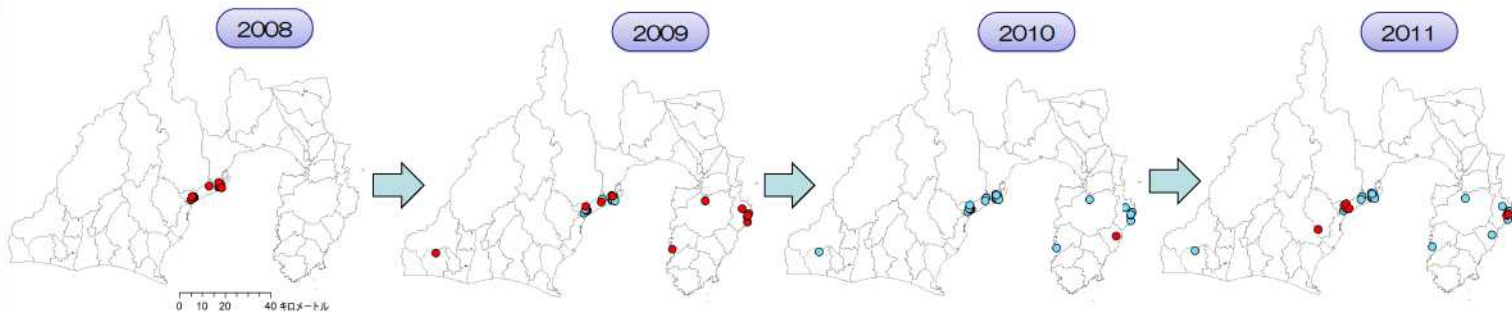
2010.11 伊東市



ヤンバルトサカヤステの国内分布拡大状況

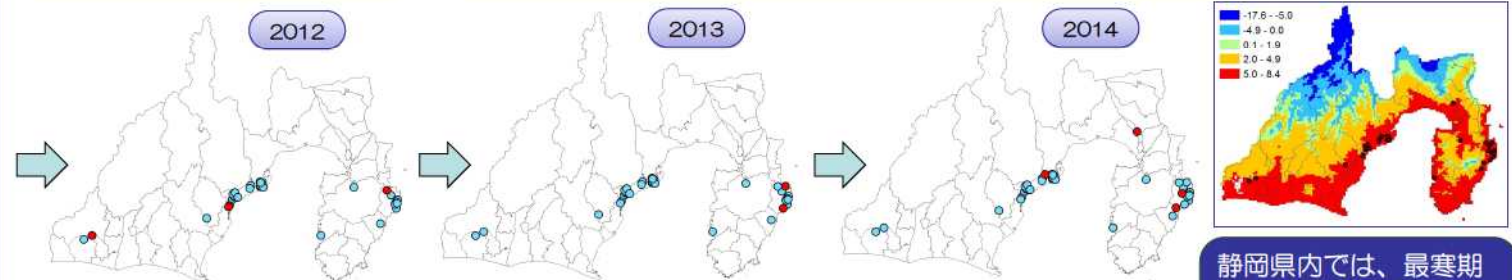
静岡県における分布確認状況

表示している西暦は生息情報を確認した年であり、侵入した年を表すものではない。



2008年以前の生息情報は静岡市内に限られていた。

2009年以降は、アンケート調査による本種の周知が進んだためか、静岡市以外に浜松市や伊豆半島の市町などで新たに異常発生の情報が寄せられた。



発生地の周辺において生息域の拡大傾向がみられた。その一方で、2014年には飛び地のように長泉町において異常発生がみられた。

静岡県内では、最寒期（1月）の平均気温が5℃以上の地域で本種が生息している。

発生地区では建物際での（最小限の）薬剤散布の他、隣接する山際の草刈、落葉などの清掃をするなど暗く湿った場所を作らない環境整備が必要

本種が一度定着すると根絶は困難なため、発生地区では土壌・肥料・植木等の持ち出し、重機等の車両移動による土壌の持ち出しの禁止といった分布拡大防止のための対策が必要

本種は生態系被害防止外来種リストに挙げられている（その他の総合対策外来種）。現状は、不快害虫として市町が薬剤散布や薬剤購入の補助金を拠出している状況である（外来種対策ではない）。